

奄美の風だより

VOL. 27 (冬号: 7) 2007. 1. 10 ANC: News Letter

発行・編集: 奄美自然体験活動推進協議会



サイヨウシャジン



オオムラサキシキブ

くてたまりません。日向ぼっこをしながら色んな動植物を早く見に行きたいものです。皆さんも晴れ間を縫って奄美の冬を散策してみませんか？

新年明けましておめでとうございます。

本格的な寒さが訪れた今日この頃ですが、去年の秋は「いつ秋になったのか？」という感じで季節の変わり目がはっきりしませんでした。そのためか、植物図鑑にはサイヨウシャジンの花の花期が8月～11月と載っているが、12月18日にあやまる岬で、元気よく咲きこれからもっと花を咲かせそうなたくさんの株を見つけました。

センター周辺ではオオムラサキシキブ、アオノクマタケランの実がなっていました。オオムラサキシキブの属名はギリシャ語で美しい果実という意味だそうです、それに相応しくとても美しい実を付けていました。奄美の冬の目を惹く果実の代表とも言えるでしょう。

また去年の秋は雨が全く降らず、笠利など一部地域では夜間断水にまでおちいりました。そのため、雨乞いが行われたという記事もありましたね。そのおかげか、やっとのことで雨が降って喜ばしいことなのですが、1ヶ月程降り続けているので、そろそろ晴れの日が続いてもいいのではないかとと思っています。ほんとうに晴れる日が待ち遠し



アオノクマタケラン

身近な野鳥たち



リュウキュウメジロ

センター周辺で見られる鳥を写真で撮りましたので紹介します。メジロにウグイスと、とても春っぽいですが…一足早い春を感じて下さい！

リュウキュウメジロは、ボーとしながらお昼を食べていたら目の前の木に飛んできて、2羽で採餌していました。晴れた暖かい日にボーとしながらお昼を食べ、近くに鳥がきて愛らしい姿を見せてくれて…とても素敵な時間を過ごしたなと思いました！



アマミコゲラ



れと共に、2羽で餌を探しながら軽快なドラミグの音をさせていました。またアマミコゲラはレッドリスト絶滅危惧Ⅱ類に入っていました。環境省が12月22日に公表したレッドリスト改定版で

ウグイス

はランク外となりました。絶滅の危険性が少なくなるということは、それだけ奄美の自然が回復してきたことのアマミコゲラの生息状況も安定してきたことの現われかも知れませんね。ウグイスは、センターの窓際にある木に餌を探しにやってきてきたところを見つけました。おいしい餌があったようで2、3日続けて食べにやってきていました。シャッターチャン



ヤマガラ

スは何度かあったのですが、失敗を何度か重ねやっと撮れた1枚です。アマミヤマガラは、シジュウカラ・メジロなどに混じって餌を探していたようなのですが私が突然現れたせいか、1羽だけ道をはさんだ反対側にいて鳴き続けていました。ヤマガラさんごめんないさい、と思いつつこれはチャンスとばかりにヤマガラを写真におさめました。

写真を撮ろうと思って鳥を探していると、すぐに飛んでいってしまっかなか良い写真を撮ることができず…。撮ろうとしないで歩いていると良いシャッターチャンスに巡り合える…。野生生物を写真におさめる難しさを痛感しました。しかし、写真が撮れた時の喜びは何物にも代え難いものだと思います！みなさんも写真を撮る喜びを味わってみませんか？

奄美の現状～イヌ・ネコ問題～

前回のニュースレター（VOL 26、秋号7）でもお伝えしたように、イヌ・ネコの糞から、アマミノクロウサギ、ケナガネズミ、トゲネズミなどの稀少な野生生物の毛や骨が出てきて今深刻な問題になっています。また、イヌやネコに襲われているアマミノクロウサギも目撃されています。

奄美の生態系の中にはイヌ・ネコのような肉食の捕食者がいないため、生きものたちはどうやって逃げられるのかのすべを知りません。そのため奄美の生きものたちにとってその存在は脅威です。

島外から来た捕食者の代表として、マングースがあげられますね。マングースは奄美の環境に定着し生息範囲を拡大していて、その捕獲作業は難航しています。マングースを根絶するため10年を目標に頑張っていますが、その10年の間に食べられてしまう奄美固有の生きものたちの数も決して少なくはないでしょう。

そしてそのマングースの脅威にプラスして、ノイヌ・ノネコの脅威も加わったら…奄美の野生生物たちはどうなるのでしょうか？考えるだけでもゾッとしませんか？

奄美野生生物保護センターでは、イヌ・ネコを捕獲するため役場や保健所と協力してワナをしかけています。捕獲されるノイヌ・ノネコは様々で、飼い犬だったもの猟犬だったもの成犬だったり子犬だったり…。

イヌ・ネコは人と共に生きるペットであり、飼えなくなったからといって山に放す…彼らは野生動物ではなくペットなのですから、山に放したからといって幸せに生きるとは限りませんよね。

ペットを飼う方々の意識が変わらない限りこの問題は解決しません。しかし、避妊・去勢などの繁殖制限や、疾病の予防接種など責任ある管理をペットを飼っていない方も含めみんなで協力して取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。

※同センターではノイヌ・ノネコの目撃情報をお待ちしております。



上の写真は仕掛けたワナにかかったネコです。

協議会活動報告

第7回やせいのいきもの絵画展

テーマ「あまみのとぶ生き物」

展示期間：平成18年12月2日（土）～平成19年1月31日（水）

平成18年12月2日～平成19年1月31日の間センターと協議会の共催で第7回「やせいのいきもの絵画展」が行われています。

豊かな自然に恵まれた奄美はたくさんの生き物が住んでいます。第7回絵画展ではそのたくさんの生き物の中から「奄美のとぶ生き物」と題して作品を募集しました。

奄美群島内外からの応募があり、応募校は14校個人は11名で総数は222点でした。

絵画展初日の12月2日（土）に企画展示室で、入賞した児童のみなさんと父兄の方々が出席されて表彰式がわれました。協議会会長の永田武光大和村長は「奄美には奄美にしかない希少な野生生物がたくさんいます。その野生生物を観察、勉強して、自分の思いを込めた作品に仕上がりました。今奄美が目指している世界自然遺産に向けて、みなさんも一緒に勉強してこれからの将来の奄美を背負って頑張ってください」と挨拶をして、入賞者一人一人へ賞状と副賞を手渡しました。

あざやか賞に輝いた龍郷小学校5年生の加納愛梨さんは「鳥が飛ぶ瞬間がとてもきれいだったので、奄美の美しい鳥たちが絵の中で飛んでいるように描いた」と話してくれました。

展示してある自分の絵をみてキラキラした笑顔を浮かべ、絵の前で記念撮影をしている子供たちの姿がとても印象的でした。

作品の展示は1月末までです。期間中に是非ご覧にいらして下さい。

絵画展の様子



表彰式



第7回絵画展入賞者及び作品名

賞	入 賞 者	題 名	学校名(学年)
いきもの大賞	前園 拓洋 溜畑 蓮	はばたくルリカケス 奄美の森の中	赤徳小学校3年 今里中学校3年
あざやか賞	戸部 優湾 大庭 翔輝 屋 佳菜未 加納 愛梨	ツマベニチョウ とりが空をとんでいるよ 炎のようなアカショウビン 目に焼きついた瞬間	伊津部小学校1年 知根小学校1年 龍郷小学校5年 龍郷小学校5年
ユニーク賞	猿渡 絵里 徳島 幸輝 宗前 清和 盛山 葉月	ルリカケスとカエルのジャンプ競争 オオトラツグミがとんでいる コウモリの大きい群れ 森にはばたくルリカケス	久志小学校1年 大棚小学校3年 知名小学校6年 大和小学校5年
審査員特別賞	岩泉 千晴 坂本 晃樹	クロウサギ 奄美の蝶	大棚小学校3年 朝日小学校6年

絵画展出展校（応募総数222点）

学校名	募集作品数	学校名	募集作品数
伊津部小学校	10点	秋名小学校	9点
笠利小学校	9点	湯湾釜分校	5点
阿伝小学校	9点	大棚小学校	19点
知根小学校	24点	大和小学校	64点
小宿中学校	4点	今里小学校	5点
龍郷小学校	25点	今里中学校	5点
久志小学校	2点	個人	11点
赤徳小学校	21点		

絵画展で賞を受賞した子供からハガキをいただきました

こんばんは。ぼくはいっぶ小学
 木ねんのとべ、ゆあんです。
 12月2日に大きなえのぐセッ
 トなにもういよした。とても
 れしかったです。ありがとご
 ざいしよした。あつんと見
 にいそいきた。いす。

入賞作品の紹介

「いきもの大賞」

低学年の部



「はばたくルリカケス」
前園 拓洋（赤徳小3年）

高学年の部



「奄美の森の中」
溜畑 蓮（今里中3年）

「あざやか賞」

低学年の部

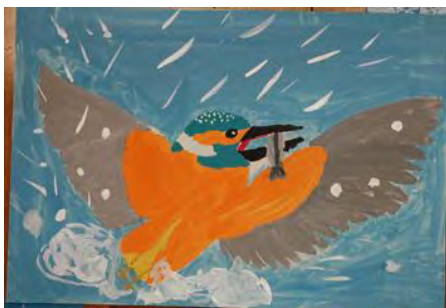


「ツマベニチョウ」
戸部 優湾（伊津部小1年）



「とりが空をとんでいるよ」
大庭 翔輝（知根小1年）

高学年の部



「目に焼きついた瞬間」
加納 愛梨（龍郷小5年）



「炎のようなアカショウビン」
屋 佳菜未（龍郷小5年）

ユニーク賞

低学年の部



「ルリカケスとカエルのジャンプ競争」
猿渡 絵里(久志小1年)



「オオトラツグミがとんでいる」
徳島 幸輝(大棚小3年)

高学年の部



「森にはばたくルリカケス」
盛山 葉月(大和小5年)



「コウモリの大きい群れ」
宗前 清和(知名小6年)

審査員特別賞



「クロウサギ」
岩泉千晴(大棚小3年)



「奄美の蝶」
坂本晃樹(朝日小6年)

「やせいのいきもの絵画展」表彰式

野生生物保護センターで展示

豊かな発想力
想像力を激励



「いきもの大賞」に選ばれた前園くんの作品『はばたくルリカケス』

奄美野生生物保護センター・奄美自然環境推進協議会主催の「第7回やせいのいきもの絵画展」の表彰式が、大和村の同センター企画展示室であった。「いきもの大賞」に選ばれた前園拓洋君（赤徳小3年）の前園拓洋君と、大和村立今里中学校3年の溜畑蓮君（今里中3年）を含めた12人に、同協議会の永田武光村長から賞状が手渡された。

式にあけ永田村長は「今年は『奄美の飛ぶ生き物』をテーマに、自然を思い、作品が多かった。絵画展は、奄美自然ふれあい行事の一環。奄美群島の小学生から22点の応募があり、同センター自然保護官の阿部慎太郎さんは『鳥やチョウを描いた作品が多かった。』と語った。



絵画展に応募し、入賞した子どもたち

たが、なかにはトビウオといった海の生き物を描くなど、いろいろな飛ぶ生き物が送られてきた。審査では、躍動感のある作品を選んだ。今後も、自分の観察体験を絵に表した作品を応募してほしい」と語った。

「いきもの大賞」に選ばれた溜畑蓮君は「受賞するとは思っていませんでした。うれしい。テーマを聞いて、ぼくも飛んでいる鳥の姿が浮かんできた」「あざやかな色に選ばれた加納愛梨さん（龍郷小5年）は『鳥が飛ぶ瞬間がとてもきれいだったので、奄美の美しい鳥たちが、絵のなかで飛んでいるように描いた』と感想を話した。今回応募された全作品は、翌1月31日まで同センターで展示している。

初日、入賞者を表彰 やせいいきもの絵画展

奄美自然体験活動推進協議会などが主催する自然ふれあい行事「第7回やせいのいきもの絵画展」が2日、大和村の奄美野生生物センターで始まった。開幕初日は表彰式があり、いきもの大賞に選ばれた前園拓洋君（赤徳小3年）、溜畑蓮君（今里中3年）ら入賞者12人に賞状や記念品を贈った。絵画展は来年1月31日まで。（入賞作は後日、ジュニア面で掲載）

同展は未来を担う子供たちに奄美の自然について興味を持ってもらうことなどが目的。「身近に見られる生きもの」をテーマに、奄美群島内から222点の力作が寄せられ

野生生物センター

た。会場には全作品を展示し、ルリカケス、アマミノクロウサギなど、おなじみの動物を生きた生き物と描いた作品が並んでいる。

表彰式には受賞者10人が出席。永田武光村長から1人ずつ賞状が手渡されたほか、作品をバックに出席者全員で記念撮影を行った。



展示作品をバックに記念撮影する受賞者ら

1月31日まで開催

湯湾岳に看板を設置しました！

湯湾岳は、その一帯にしかない多くの希少な動植物が生息している、奄美の最高峰です。南の宇検村側は、奄美群島国定公園の特別保護地区に指定されています。また保護地区に指定されていない大和村側も含め数多くの希少な動植物が生息しています。それらの動植物は湯湾岳があったからこそ生きのびてきたものです。また、1年程前に湯湾岳でクモの新種が見つかったというのをご存知でしょうか。まだ、新種が見つかるかもしれない。という未知の部分が湯湾岳にはあります。このように湯湾岳一帯はとても貴重で、大切な場所となっています。ところが、一部マニアによる盗掘などが後を絶たないため、その希少な動植物の存在が危ぶまれています。

そのため多くの登山者にマナーを守っていただけるように登山道の6ヶ所に看板を設置しました。きれいだから、珍しいからといって、家に持ち帰ってしまったりは、みんなで観察して楽しむことが出来なくなるのはもちろん、動植物が数を減らす原因にもなってしまいます。

湯湾岳を楽しむ一人一人がマナーを守り、これからも多くの野生動植物が住める、そしてみんなで楽しく観察できる湯湾岳を末永く残すため、周知などご協力をお願いします。



↑看板内容



↑看板設置場所（木、林道など）
木に看板を設置する際は、木が成長しても負担がかからないようにバネを使用しています。



★ 奄美野生生物保護センタースタッフによる野生の生き物情報 ★

～ アマミヤマシギの紹介 ～

野生生物保護センターでは、現在、3種の希少野生動物を対象に保護増殖事業を行っています。このコーナーでは、これまでオオトラツグミ、アマミノクロウサギについて紹介してきました。そして、最後の1種がアマミヤマシギです。

🦋 アマミヤマシギの魅力

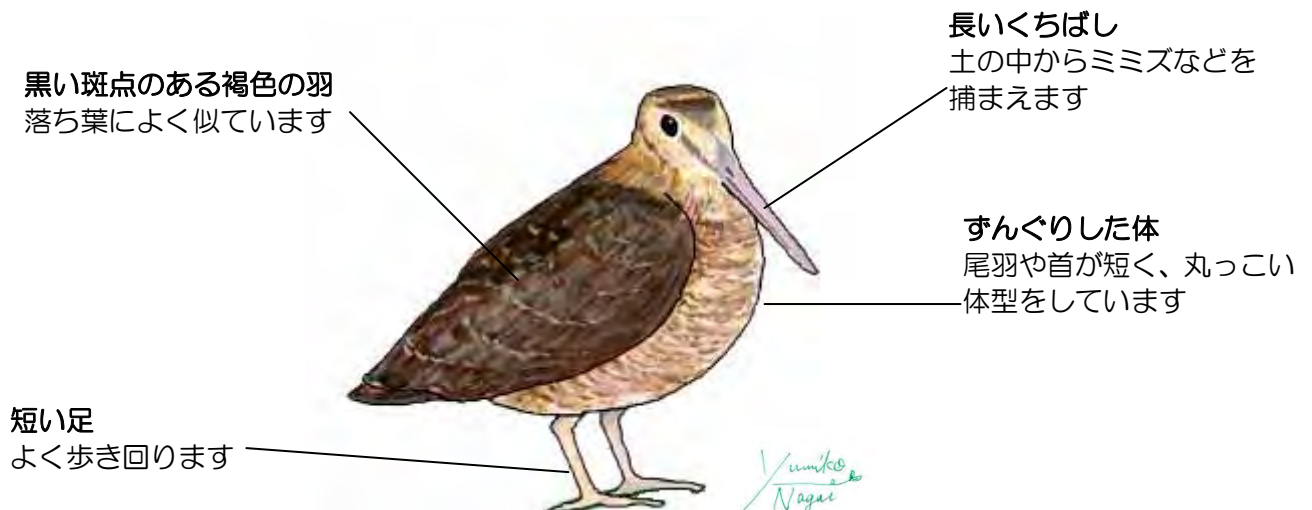
みなさんはアマミヤマシギという鳥をご存じでしょうか？アカショウビンやルリカケスのように鮮やかな色の羽を持っているわけでもなく、アカヒゲやオオトラツグミのように美しい声で鳴くこともないので、知名度はあまり高くないかもしれません。夜行性なので昼間にはなかなか姿を見ることもできません。でも、夜の森でアマミヤマシギと出会い、その仕草をよく観察したらきっとこの鳥に興味がわいてくると思います。

夜の林道を車で走っていてアマミヤマシギに出会うと、すぐに飛んで逃げてしまうものもありますが、こちらを気にする様子もなくトコトコと地面を歩き回り、エサを探す動作などをゆっくり観察できることもあります。特に幼鳥は警戒心が強くないようで、車の前でのんびりくつろいでしまい、なかなか道を空けてくれないこともあります。

道を左右に行ったり来たり、じ〜っとたたずんだり、羽をピンと上にむけて広げてみたり、ひとつひとつの動作がのんびりしていて、とてもユーモラスです。鳥なのに飛ぶのがあまり上手ではなく、風の強い日などには一生懸命羽ばたいているのに後ろ向きに飛んでいってしまうこともあります。着地も下手で、木の枝にとまろうとして失敗、ばさばさと枝の間を落ちていくのを見たことがあります。こんなにのんびりした鳥が暮らしていけるのも、奄美の森の豊かさがあるからかもしれません。

🦋 アマミヤマシギの分布と形態

奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島で繁殖が確認されており、喜界島、沖永良部島でも観察例があります。また、沖縄まで渡っている個体もいるようです。



🦋 少しずつ分かってきた生態

奄美の多くの野生動物と同様に、アマミヤマシギも生息環境の減少やマングースの影響を受け、2006 年に環境省が発表したレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に指定されています。奄美野生生物保護センターでは、2001 年から保護増殖事業としてアマミヤマシギの調査を進めています。

- 出来る限り多くの林道を車で走り、出現する個体をカウントする**全島調査**
- 発信器を装着し、行動を追跡する**ラジオ・テレメトリー調査**
- 足環の標識をつけて個体識別し、行動を詳しく観察する**捕獲標識調査** など



撮影：奄美野鳥の会
発信器をつけた様子



撮影：奄美野鳥の会
足環をつけた様子

夜行性のアマミヤマシギの生態を明らかにすることは簡単ではありませんが、これまでの調査でその生態の一部が少しずつ分かってきました。

好きな環境は・・・島ごとに好きな環境が違いうようで、奄美大島・加計呂麻島では森林に多く生息しているのに対し、農耕地の多い徳之島では畑が重要な生息場になっています。様々な環境に適応している、といえるのかもしれません。

繁殖は・・・林の中の落ち葉の上で巣が作られているのが見つかっています。営巣が見つかっているのは3月から5月、卵は2～4個、抱卵期間は3週間程度です。

昼と夜の移動・・・ラジオ・テレメトリー調査で、山の上で発信器をつけたメスが繁殖期には農耕地のそばの林に移動する例が観察されています。このメスは、昼間は林で休息し、夜になると農耕地にエサをとりに出かけていました。

月夜の晩に多い・・・捕獲標識調査では、同じ経路を調査しているのにアマミヤマシギが多く出現する日と少ない日がありました。この出現数と月齢について調べたところ、満月の夜には林道に出てくる数が多いことが分かりました。

マングースの影響・・・島全体を調査する全島調査で、マングースが多く生息する地域ではアマミヤマシギが非常に少ないことが分かりました。マングースの影響を強く受けていると考えられます。

🦋 まだまだ分からない生態

現在、奄美大島、加計呂麻島、徳之島にアマミヤマシギは何羽生息しているのでしょうか？満月の夜に多く出現するのはなぜでしょう？ アマミヤマシギの生態は、まだまだ分からないことがたくさんあります。

今後も調査を続け、その生態を明らかにしていくことで効果的な保護対策を行うことができると思っています。

(アクティブレンジャー 迫田 拓)

冬にみられる野生生物

キセキレイ [スズメ目・セキレイ科 全長20cm 冬鳥]

下面が黄色く、尾の長いスマートな鳥である。頭から背にかけて青灰色で眉斑が白く、翼や尾は黒かった色で尾の外側は白い。冬羽では雄も雌ものどが白く、くちばしは黒色で足は黄かった色である。腰や尾をよく上下に降るが、セキレイ類のことを英語でWagtail(ワグテイル)といい、「尾をよく振る」という意味。奄美でもっとも早く渡ってくる冬鳥のひとつ。

鳴き声：チチチッ チチチッ、チチン チチン、など

生息時期：8月～12月～5月



サシバ [タカ目・タカ科 全長49cm 冬鳥]

絶滅危惧Ⅱ類

秋に大群で南下するタカ類で、奄美では冬季に農耕地や林縁などでよく見られる。頭から体の上面は茶かった色で、のどに一本の縦線がある。腹には横斑があるが、幼鳥では縦班になっている。個体により色により色の差が見られ、全身黒っぽい暗色型も稀に見られる。日本本土では夏鳥であるが、奄美では冬鳥になっている野鳥の一つです。

鳴き声：ピクィー、キンミー、など

生息時期：9月～12月～5月



サネカズラ(ビナンカズラ) [マツブサ科]

山地に生える雌雄異株の常緑藤本で、古い茎ではコルク層が発達して径2cmに達する。葉の表面は光沢があり、裏面はしばしば帯紫色、先は多少とがり、基部はくさび形、縁にはまばらに低い鋸歯がある。花は葉腋から垂れ下がって単生し、淡黄白色で径1.5cm。集合果は球形で赤色に熟し、径2～3cm。茎には粘液があり、昔はこれを水に溶かして整髪していたので、「美男かずら」とも言う。分布：本州（関東地方以西）以南



ユワンツチトリモチ [ツチトリモチ科]

準絶滅危惧

イジュの根に生える多年生寄生植物。大きさは、7～10cm。花期は、11月～12月。名は土鳥もちの意で、根茎をすりつぶして鳥もちを作るからである。湯湾岳では登山者の採取が行われ、存在が脅かされている。
分布：奄美大島(固有)



～番外編～

アクティブレンジャーの永井さんがとても珍しい写真を撮ってきてくれました！イシカワガエルがヒメハブに食べられているところです。すごい迫力ですね！！

イシカワガエル：奄美大島・沖縄に分布。日本で一番美しいカエルと言われている。

ヒメハブ：夜行性で主にカエル類を餌にするが、小型哺乳類、鳥類、爬虫類などさまざまな脊椎動物を食べる。本種は正体不明のツチノコに最も体形的に似ている動物といわれている。



参考文献：鹿児島県レッドデータブック、図鑑奄美の野鳥、琉球弧 野山の花、北緯28度の森、日本の両生爬虫類

編集後記

はじめまして、永野さんに代わりまして11月16日から後任として協議会の事務をしています吉田といいます。

自然保護官の阿部さんをはじめ、センターのみなさんの協力によって初めてのニュースレターを編集することができました。

奄美に来てまだ2ヶ月程で分からないことがたくさんありますが、奄美の素晴らしさを多くの方に知ってもらえるように頑張っていきますのでよろしくお願いします。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局

☐ 〒894-3192

鹿児島県大島郡大和村大和浜100

大和村役場 企画財政課

TEL：0997-57-2111

☐ (連絡・書類等送付先)

〒894-3104

鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551

奄美野生生物保護センター内

TEL：0997-55-8620

FAX：0997-55-8621